

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600364		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおやふね		
所在地	石狩市親船町20番地1		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197600364-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様一人一人の特性を把握し、できることの可能性を引き出し、あたたかく見守り安全を確保しながらもその人らしい生活を送れる様に支援しています。
- ・コロナ感染症対策で、中々外部の方と交流が行えませんが、モニターを使用した外部との会話、石狩市の介護相談委員様との月1回のズームでの会話等で交流を少しずつ行ってきました。
- ・コロナ感染症では、全職員一丸となり手洗い・消毒に気を付けて感染防止に努めました。医療面では週に1度の訪問看護、2週に1度の訪問診療、にて入居者様の体調管理が行われ急変時には24時間病状相談、緊急連絡が取れるような体制ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩川河口近くの住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームである。近くに石狩温泉、観光センター、郵便局などがあって利便性が高く、川が近いので事業所裏の川辺を気軽に散歩することもできる。建物は居間兼食堂が中心にあり、その両側に事務所とキッチンが配置されている。居間の外にウッドデッキがあり、玄関への扉はガラス戸で開放的である。床暖房で快適な温度が保たれ、季節の装飾を多く配置している。トイレが4か所あり、浴室や脱衣所も暖かく過せている。個々の居室は比較的大く、利用者が好きなものを多く持ち込み、その人らしい居室としている。感染症の流行により現在は地域や家族、友人などとの交流が難しいが、以前は、地域行事への参加、事業所での認知症カフェの開設、友人の来訪などが活発であり、利用者や職員は収束後の再開を待ち望んでいる。比較的長く勤める職員が多いこともあり、利用者や家族との信頼関係ができ、安心感につながっている。運営面では、法人の支援のもと、各種のマニュアルや書式、研修体制を整えている。夏に管理者が法人内の他のグループホームから異動して来て、全体の運営体制や書類の整備などをさらに改善すべく取り組んでいるところである。快適な環境のもと、利用者が自分らしく過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過せている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	情報の提供・共有を行い実践につなげています。職員は利用者様の意志を大切にゆとりのあるケアを意識して行っています。	5項目からなる独自の理念の中に「地域との関わりを大切に」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を事務所や食堂に掲示している。今後は会議等の場で理念の共有をさらに進めたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の為なかなか難しい。コロナ感染症の為なかなか難しい	感染症流行前は地域のサーモン祭り、いも煮会などに参加したり、月1回、事業所で認知症カフェを開設し住民と交流していた。現在は交流が難しいが、収束後には再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症の為なかなか難しい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症の為なかなか難しいが、封書にて送り、意見等を求め活かしています。文章等で報告を行っています。	現在は2か月ごとの文書開催となっている。構成員は市や地域包括支援センター、地域住民、家族、民生委員で、サービス評価や感染症、年間予定などを議題に取り上げている。議事録をメンバーに送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡等を行い協力関係を築く様に取り組んでいます。電話 文章 ズームなどで連絡を取り合い取り組んでいます。	相談事があれば、管理者が市や地域包括支援センターに直接出向いたり、電話で問い合わせしている。市の相談員が利用者それぞれとテレビ電話で話しをしており、その際に支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を、しないケアに取り組んでいます。管理者・職員で、3か月ごとに会議を開催し、議事録で共有している。毎日身体拘束の定義を送り時に唱え防止に向けた取り組みをしています。	身体拘束を行っておらず、具体的な禁止行為を示したマニュアルを用意し、半年ごとに勉強会を行っている。また、不適切ケア防止委員会を3か月ごとに開催している。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に入出りができる。外出希望があれば一緒に外に出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から、高齢者虐待の定義を唱え情報の共有し、注意を払い、防止に努めています。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもち、それらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得していただくように図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様が意見、要望を表せる機会を設けて、運営に反映しています。家族の個別な意見は面会時に、お話ししやすい環境を作り、対応しています。またブログ更新を1か月に1回し、外部に発信しています。	家族には主に電話で連絡をしている。家族からの意見を申し送りノートに記載するとともに、口頭で職員に伝えている。毎月、個人ごとに写真入りのお便りを作成して家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようにしています。会議では利用者様の安全な見守りの対策を検討したり、定期的な勉強会での意見の交換して働きやすい職場づくりを目指しています。	月1回の全体会議で、職員が活発に意見交換をしている。管理者と職員は定期的および随時の面談を行っている。職員は備品や介護用品の管理などを分担し、行事を交代して担当するなど運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていただいていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症の為外の研修は、ズームで行っていました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症の為今は、自粛しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士の関係を築く様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けるように、情報共有しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の為なかなか難しいが、支援しています。	数名の利用者に対して、近所に住んでいた知人などが時折来訪しており、現在は窓越しで面会している。利用者に知人から電話が来た際は取り次いでいる。感染症収束後は、馴染みの店への買い物や石狩温泉での入浴、好みの外食などを再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合えるような支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過をフォローし、相談等の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向に沿うように努めています。外出などは出来ないが、思いや暮らし方は、希望によりそい行っています。	半分以上の利用者が言葉で思いや意向を表出でき、その他の利用者も問いかけの反応などから把握している。パソコン上でアセスメントシートの作成を進めているが、まだ十分に整備できていない。	生活歴等を記載する「B-2」シート、趣味や嗜好等を記載する「B-3」シートについて重点的に作成を進め、支援に活かすことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方に沿うように		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成するように努めています。計画作成担当者が中心となり、モニタリング、意見の交換等で現状に即した介護計画を作成している。	3か月ごとに計画の評価を行い、6か月ごとに計画を更新している。評価表右側のコメント欄の記載をより充実していく方針としている。パソコンで作成する日々の記録は、目標項目に関する内容を「ケース」の区分に分類して記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有を大切に見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様が安全で快適な暮らしができるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の訪問診療 その他の必要な受診は、ご本人様・家族と相談し受診しています。全員協力医の訪問診療を受け、健康管理をしています。訪問看護も月4回、あり看護師さんと利用者様がなじみの関係にあり、体の悩みも相談されています。	協力医による往診を月2回受けている。毎回医師が作成する「情報提供書」を保管している。他科の通院も事業所で送迎しており、通院分は別に医療記録を作成している。	

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や、看護をうけられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と、関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談しながら、情報の共有し体調管理に気をつけています。状態が変化したときには、主治医の説明のもとに方針を確認し対応致します。状態を確認早め対応の心がけています。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は医療機関と相談の上で入院となる旨を本人、家族に説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を、目の付くところに置き、常に提案し共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策を行い地域との協力関係を築く様に行っています。消防署・防火設備会社の協力を得て年2回避難訓練を行っている。地震災害対応についてのマップの確認やマニュアルを基に勉強会を行い、全職員共有しています。常に連絡網を見える場所に置き、もしものときにそなえて、話をしています。	年2回、主に夜間を想定した避難訓練を行っており、感染症流行前は消防の指導や住民の参加も得ていた。救急救命訓練は感染症収束後に再開する予定で、災害時に必要な備蓄品も用意している。地震や水害に対する対応の確認はあまり行っていない。	地震や水害等、火災以外の対応について、マニュアルや防災ガイドブックなどを参考に年1回程度、職員間で話し合う機会を持つことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し言葉がけや対応している。	日常的な声かけは人格を尊重し対応している。個人記録は鍵のあるロッカーに保管し、毎日の記録類も利用者の目に触れないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うようにお話を伺いさせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	蜜にならず、換気しながら、行っています。消毒後、お手伝いをいただいています。	メニューに合わせた食材が搬入されホーム内で調理されている。利用者が芋の皮をむいたり、食器拭きを一緒に行っている。行事食の予定を立て、おやつ作りや屋外での焼肉などの機会もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	確認表を通じて職員間の情報共有等で支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った支援を行っています。排泄表・職員情報の共有を、用いて自立に向けた支援を行っています。	毎日、排尿・排便表の記録を行い排泄パターンを把握し1人ひとりに合わせた声かけにより、トイレで排泄できている利用者が多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ここに沿った支援を行っています。ご本人様の希望に沿って、入浴を楽しんでいただいています。	週3回は入浴できるように準備されており、週2回は入浴できている。希望により仲の良い利用者が入浴するなどの工夫でスムーズに入浴できる利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように、支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めて参ります。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換し、穏やかに過ごせるように支援しています。			

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為難しいです。	感染症流行前は、花見や近所の温泉施設などに外出しており、収束後の再開を予定している。感染状況をみながらドライブなどから外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はされていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通気を良くして、外の景色が見られるようにしています。利用者様が、心地よく過ごせるように、明かり・室温・湿度に配慮しています。ウッドデッキに季節の花を植え季節感を出しています。	大きな窓からは石狩川の景色を眺められ、明るく清潔な居間があり、廊下にはゆったりとくつろげるソファを設置している。居間から屋外に出られるウッドデッキがあり、いつでも外気浴ができるようになっている。トイレ・浴室は広々としており手すり設置により安全面への配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。入居されるときに、できるだけ馴染みの物をもってきていただいています。入居前から使用されている、なじみのものが居室にあり、安心して過ごせるように工夫しています。	床暖房が完備されている居室に、自宅から使いなれたテレビや小さめの冷蔵庫を持ってきている方もおり居心地よく過ごせるようにしている。居室の入り口には手作りの名札を設置し居室がわかりやすいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活ができるように、工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおやふね

作成日：令和 3年 12月 28日

市町村受理日：令和 4年 1月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握	本人様の思いや意向をより身近に感じ職員一同情報を共有し寄り添って行きたいと思えます	フェースシートを利用したり、身近なお話をお聞きして思い・やりたい事・家族様の思いも含めてお聞きしていければと思っています。	1年
2	35	災害対策 地域がら、地震や水害対策が考えられるが対策が遅れていた。	地域的に火災訓練も大切だが、水害対策・地震対策にも力を入れ毎月一回会議時に、話し合いを持ち対策を講じて行く	ホーム会議の際に、対策を検討し、記載していく。防災ガイドブックなどを参考に職員間での話し合いを行う。	6ヶ月以内
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。